

本時のねらい

・本班の脚本をもとに、他班が作成した映像を見て、自分たちの脚本の言語表現についてさらに工夫できる点を加えることができる。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

・本単元の中心は脚本づくりと映像撮影、編集である。脚本づくりはMicrosoft Wordで行い、映像撮影、編集は生徒用タブレット端末を使用する。脚本に描かれた行動描写や台詞を、実際の動きや発語の仕方を考えて映像にすることを通して、描写が持つ本質的な「映像（イメージ）を生み出す」という効果をとらえられるようにしたい。また、映像化されることを前提とした脚本づくりは、学び手に具体的な想像、それに支えられた描写をせざるを得ない状況を生み出すと考えている。

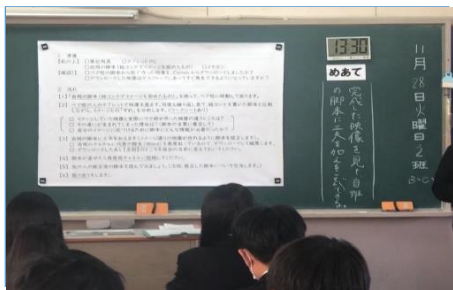
活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

・Canva（動画編集に使用） ・Teams（Microsoft）

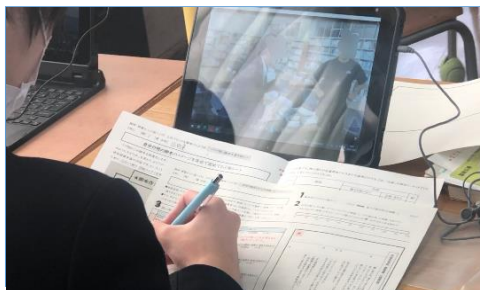
本時の展開

| 学習の流れ | 主な学習活動と内容 | ICT活用のポイント・工夫 |
|-------------|---|---|
| 導入 (4分) | 1. 本時の流れと目標をつかむ【写真1】 本時の目標「完成した映像を見て、自分たちの脚本にさらに工夫を加えることができる」 2. 準備を行う 〈準備物〉 ①タブレット（Teamsを開いておく） ②脚本（ペア班に映像化を依頼した、本班が作成したもの。カット割り等が記入されている） | ・本班が作った脚本をもとにペア班が作成した映像を、ペア班同士でお互いに視聴し合う。撮影は生徒用タブレット端末で行う。動画の編集は「canva」を使用。 |
| 展開 (43分) | 3. 本班で作成した脚本をもとに作られたペア班の映像を視聴する【写真2】 ①一人一つ、イヤホンを用いて視聴する ②脚本と映像を比較して、脚本に書くべきだった情報を分析し、ワークシートに書く 4. 3で書いたワークシートの内容にしたがって脚本に工夫を加える(修正する)【写真3】 5. 修正した脚本について班内で交流し、工夫点や修正点について自分の意見を伝え合い、ペア班に撮り直しを依頼する脚本を決定する | ・6班分の映像が同時に再生されて音が干渉しあうので、一人ずつイヤホンを使用して視聴する。映像は何度も繰り返し再生できる。脚本と映像の比較分析を集中して行う。 ・それぞれの班が、映像を基に話し合うことにより、ペア班が同時並行で作業を行うことが可能になる。 |
| まとめ(3分) | 6. 振り返りを書く | |

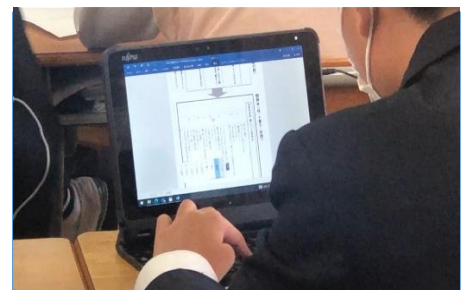
1人1台端末を活用した活動の様子



【写真1】活動や評価の観点を細かに示す



【写真2】動画を見ながら脚本の改善点を探す



【写真3】脚本を修正する (Word)

児童生徒の反応や変容

アニメ作品の絵コンテ、そして脚本に書かれている描写が、相手にイメージを伝えるうえでいかに工夫が必要であるかを、生徒は授業を楽しみながらも確実に実感していた。初めて見た人が、正しく映像をつくるためにどのような言葉がふさわしいか、そして読み手として、できるだけ作者の意図を組むように読むことの重要性を、作る側、受け取る側の双方の視点で学ぶことができ、修正された脚本では、生徒の表現の幅が広がっていた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

中学校の授業で脚本を扱うのも撮影・映像編集を扱うのも初めての試みで、自分自身にとっても挑戦的な単元設定である。脚本の持つ描写性、具体性、指示性、映像性のようなものを捉えることが、文学的文章の理解や表現に役立つだけでなく、ひいては様々なテキストと向き合うヒントになると期待している。